

再質問の方式
1 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 投票率を上げるための取組や主権者教育について

質問要旨 10月31日に行われた衆議院議員選挙の小平市での投票率は小選挙区が59.66%で、前回より4.21%高く、26市の平均値58.15%よりも高い値でしたが、国分寺市の62.37%、武蔵野市の61.45%、小金井市の60.93%などの他市よりは低い値でした。市民の政治への参加を進めるために投票率を更に上げていくための施策をお聞きします

1. 年配の方から、投票に行きたくても、投票所が遠くて行けない、という声を複数聞きました。1969年に自治省が示した投票所の設置基準では、投票所から選挙人の住所までの道程が2km以上であり、かつ一投票区の選挙人の数が2000人を超える投票区等については、投票区の増設に努めること、とされています。市内に、投票所から選挙人の住所までの道程が2km以上、もしくは選挙人の数が2000人を超える投票区はありますか。
2. 市内の地域センターは6か所、公民館は3館が投票所として利用されていますが、それら以外の地域センターや公民館も投票所として活用できないでしょうか。また、商店街の空き店舗や、スーパーマーケットなどの商業施設、市内の大学、市内の高校に期日前投票所を設置すれば、投票率を上げる効果が見込まれます。それらの施設それぞれを投票所とするための条件や課題をお教えてください。
3. 熊本県八代市などでは、投票に必要な資機材を載せた車を使って、移動・巡回式の期日前投票所を設置しています。小平市でも同様の取り組みを行えないでしょうか。また、新宿区では、障がいをもつ子どもの保護者の団体からの要望に応え、障がいをもつ人が参加する模擬投票を行っています。小平市で、高齢者や障がいのある方が投票をしやすくするためにやっている工夫をお教えてください。
4. 10月31日の衆議院議員選挙での10代、20代の方の投票率を前回2017年と比較してお教えてください。国分寺市は、2017年の都議会議員選挙の前に、公民館と選挙管理委員会が共催し、東京学芸大学の学生が企画・運営した「あなたはどうか選ぶ？ 18歳選挙権の中での政治参加、選挙について考えてみよう」という主権者講座を公民館で開催しました。小平市では、若い人の投票率を向上させるためにどのような取り組みを行っていますか。
5. 千葉県立国府台高校では、10月31日の衆議院議員選挙に合わせて13日から18日に、各党の国会議員らが生徒からの質問にオンラインで回答した動画を用いた授業を行い、公示後に模擬投票も行いました。都立戸山高校でも、選挙公報や新聞記事などを参考にして実際の政党に投票する模擬投票を行っています。小平市で行っている模擬投票も、実際に行われる選挙を題材とすることで、現実の政治課題を学び、自ら考え判断する主権者教育をより効果的に行えると思いますが、見解をお聞かせください。
6. 実際の教育現場では、政治的中立性を担保するために、現実の具体的な政治的事象は取り上げにくい、新聞を活用するときはあらゆる全国紙を使わなければならないと時間がかかる、といった声があると報道されています。これらの課題を含め、市立小・中学校での主権者教育をどのように行っているのか、お聞かせください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 3年 11月18日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ